一　春香さんたちは、次の〔文章Ⅰ〕と〔文章Ⅱ〕を読み、生物の進化について考えを深めようとしています。これらの文章を読んで、後の㈠～㈥の問いに答えなさい。

〔文章Ⅰ〕

すべての生物は進化をします。「進化」という言葉はいろいろな分野で少し違った意味で使われていますが、ここでの「進化」は生物学的な進化を指します。すなわち、ダーウィンが述べた「多様性を持つ集団が自然選択を受けることによって起こる現象」のことです。

この進化の原理はとても単純です。まず、生物は同じ種であっても個体ごとに少しずつ遺伝子が違っていて、その能力にも少しだけ違いがあること、つまり能力に多様性があることを前提とします。

たとえば、池の中にミジンコがたくさんいて、みんな少しずつ泳ぐ速さが違うといった状況をイメージしてください。［ i ］ミジンコは、泳ぐのが遅いミジンコよりもきっと餌（えさ）を多く手に入れることができるでしょうし、ヤゴなどの天敵から逃げやすいので長く生き残ってたくさんの子孫を残すでしょう。そして次の世代のミジンコ集団では泳ぐのが速いミジンコの割合が増えていることでしょう。

この子孫を残しやすい性質が集団内で増えていく現象が「自然選択」と呼ばれます。多様性があってそこに自然選択が働くと、より子孫を残しやすい性質がその生物集団に自然に広がっていくことになります。

このように集団の性質がどんどん変わっていくことが生物学的な「進化」と呼ばれます。自然選択が起こると特定の性質が選ばれるので、一時的に多様性は小さくなってしまいますが、そのうち遺伝子に突然変異が起きてまたいろいろ性質の違う個体が生まれると［ ii ］は回復します。そしてまた自然選択が起こり、進化が続いていくことになります。

ここで例として挙げた進化では泳ぐのが速くなるくらいの小さな変化ですが、おそらくこれを気の遠くなるほど続けた結果が、私たち人間を含む現在に生きる生物たちです。私たちの祖先は細菌のような単細胞生物だったと言われていますが、このような多様性と自然選択を気の遠くなるような数だけ繰り返して、より生き残りやすい性質を生み出し選んできました。その結果、現在の私たち人間や、現在生きているすべての生物のような複雑な生物へと進化していったと考えられています。

増える能力の話に戻ります。実は、進化が起こるには増える能力が前提として必要です。つまり、増えなかったら進化することはあり得ません。

たとえば、A増える能力を持たない岩石を考えてみましょう。岩石にも多様性があります。河原にある様々な石を思い浮かべてみてください。丸い石、ごつごつした石、平べったい石など形もいろいろですし、石のでき方によって種類も、チャート、砂岩、石灰石、蛇紋岩など様々です。この違いによって、石ごとに硬い、柔らかい、脆（もろ）いなど性質が異なります。つまり性質に多様性があります。この性質の違いにより自然選択がおこり、何年も経（た）ったあとの残りやすさに違いが生まれます。たとえば、砂岩などは比較的柔らかいので他の岩石よりも早く風化してなくなり、ほかのもっと硬い岩石はずっと形を保って残り続けることになるでしょう。

ここまでの現象は、必要な時間は違いますがミジンコと同じです。しかし、ミジンコとは違って岩石は自らを増やすことはありません。したがって、どんなに生き残りやすい丈夫な性質を持っていたとしても、その性質が次世代に受け継がれることはありませんし、集団内に広がることもありません。いつかは砕けてしまって、また上流から新しい石が流れてきて、元の状態に戻るだけです。

Bここに増えるものと増えないものの違いがあります。ミジンコは増えて、どんどん性質がその環境に適したものに変化していきます。一億年前のミジンコは現在のミジンコときっと異なる性質を持っていました（少なくともＤＮＡ配列は大きく異なるはずです）。一方で増えない岩石は変化することはありません。一億年前の河原にあった石の性質は、現在の河原にある石の性質と変わることはないはずです。

（市橋伯一『増えるものたちの進化生物学』による。）

〔文章Ⅱ〕

現実の生物でも、自然選択は非常に重要だ。地球の環境はつねに変化する。たとえば、気温が摂氏二〇度から〇度になったとしよう。そのとき、生物が変化しなければ、つまり二〇度に適応したままならば、生物は寒くて絶滅してしまうだろう。【ア】

また、自然選択が働かずに、ただやみくもに変化するだけでも困る。【イ】気温は二〇度から〇度に変化したのに、生物の方は二〇度に適応したものから四〇度に適応するように変化したら、やはり寒くて絶滅してしまう。

環境の変化に合わせるように、いや正確には環境の変化を追いかけるように、生物を変化させられるのは、自然選択だけである。【ウ】もし自然選択が働いていれば、気温が二〇度から〇度になったら、生物は二〇度に適応したものから多分一〇度ぐらいに適応したものに変化できる。【エ】環境の変化よりは少し遅れるものの、自然選択は環境の変化を追いかけるように、生物を変化させることができるのである。

さらに、もう一つ、自然選択にはよいところがある。地球の環境は、場所によって異なる。赤道直下は暑いし、南極は寒い。熱帯多雨林には雨が多いが、砂漠では少ない。そんないろいろな環境に適応していけば、生物はさまざまな種に多様化していくだろう。

つまり、自然選択によって、生物は多様化しつつ、環境の変化に合わせるように変化していく。そうなれば、環境の変化についていけずに一部の生物が絶滅することはあっても、すべての生物が絶滅することは滅多にないだろう。実際に地球では、およそ四十億年もの長きにわたって、生物は生き続けてきたのである。こんなに長く生き続けてこられたのは、自然選択のおかげなのだ。

（更科功『若い読者に贈る美しい生物学講義
――感動する生命のはなし』による。）

（注）摂氏二〇度……20℃のこと。

（問題は次のページに続きます。）

(一) 〔文章Ⅰ〕中 i 、 ii に当てはまる言葉を、〔文章Ⅰ〕中からそれぞれ抜き出して書きなさい。ただし、 i は六字、 ii は三字とする。

(二) 〔文章Ⅰ〕中A――「増える能力を持たない岩石」とありますが、筆者がここで増える能力を持たない「岩石」を例として挙げた理由として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 「岩石」などの身近な例を挙げることは、自然選択が私たちの生活に欠かせないという考えの裏付けとなるから。

イ 進化にかかる時間の長さを述べるためには、変化する時間に差がある「岩石」を取り上げておくことが必要だから。

ウ 「岩石」は生物と同様に残りやすさに違いがあり、増える能力を持つ生物と比較する際の対象として適しているから。

エ 「岩石」に様々な性質があることを紹介することで、増える能力を持つ生物にも様々な性質があることが明らかになるから。

(三) 〔文章Ⅰ〕中B――「ここに増えるものと増えないものの違いがあります」とありますが、増えるものには、増えないものと違ってどのような特徴があるということが述べられていますか、書きなさい。

(四) 次の［　　］で囲まれた文は、〔文章Ⅱ〕中の【ア】～【エ】のいずれかの箇所に入ります。当てはまる箇所として最も適切なものを、ア～エから選びなさい。

そして時間が経てば、○度に適応したものも現れてくるだろう。

(五) 〔文章Ⅰ〕と〔文章Ⅱ〕に共通している表現の特徴を説明したものとして最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 「です」「ます」を用いて丁寧に説明することで、専門外の読者であっても、内容が理解しやすいよう工夫している。

イ 冒頭で示した話題について、様々な状況を「たとえば」を用いて取り上げながら、分かりやすい説明となるようにしている。

ウ 従来の一般的な考え方に対して、具体的なデータに基づいた数値を示すことで、新たな視点を読者に提示しようとしている。

エ 専門的で難しい内容について、「　」や比喩を多用しながら、読者が自分自身のこととして考えることができるよう配慮している。

(六) 春香さんたちは、〔文章Ⅰ〕と〔文章Ⅱ〕を読んで、その内容について意見を述べることにしました。次のア～エのうち、〔文章Ⅰ〕と〔文章Ⅱ〕の内容を適切に読み取れているものを、全て選びなさい。

ア 春香さん 〔文章Ⅰ〕と〔文章Ⅱ〕は、両方とも進化について書かれたものであり、どちらの文章でも、生物が多様であることと、自然選択によって進化するということを述べているね。

イ 夏世さん 〔文章Ⅰ〕も〔文章Ⅱ〕も、環境が大きく変化することで生物の進化が起こるということが述べられていて、生物の進化の原理はとても複雑だということが筆者の主張になっているね。

ウ 秋斗さん 〔文章Ⅰ〕では、生物は増えることで性質が次世代に引き継がれるということを述べていて、〔文章Ⅱ〕では、生物は多様化することで、現在まで生き残り続けることができたと述べているね。

エ 冬輝さん 〔文章Ⅰ〕では、小さな変化を数多く繰り返すことで複雑な生物へと進化してきたことが述べられていて、〔文章Ⅱ〕では、環境の変化に適応するように生物も変化するということが述べられているね。

二　次の文章を読んで、後の㈠～㈣の問いに答えなさい。

『カッシーニが見たのと同じ景色を見よう！』

他の部が必ずと言っていいほど、欄を「楽しい部です」とか「新入生大歓迎」という文字で埋めているのと違って、亜紗はそういう類のことは一切書かなかった。見出しのように書いたその一行の下に、部室に保管されている空気望遠鏡の絵を描き、ただ説明を添えた。

『三高の天文部には、過去の先輩たちが作った大きな「空気望遠鏡」があります。三百年前にカッシーニが土星を見たのと同じ望遠鏡で、私たちと星を見ませんか。』

A「とてもいいと思います。亜紗ちゃんに原稿をお願いしてよかった。」

晴菜先輩にまた褒められて、亜紗はいよいよ困ってしまう。照れ隠しに、「あ、いやいやー。」とつい、早口になる。

「自分だったら、どんなことが書いてあったら興味を持つかなって考えただけなんです。私も、入ってきてすぐの頃に空気望遠鏡を見せてもらえたの、すごくわくわくしましたから。」

「ええ。あの望遠鏡は私たちのOGが残してくれた、素晴らしい財産です。」

晴菜先輩がにっこりする。そうやって、自分の先輩たちの話をする晴菜先輩は誇らしげで嬉しそうだ。でもだからこそ、晴菜先輩が自分の代で活動を絶やすわけにはいかないと思っている責任感も強く伝わってくる。

B三高天文部の、亜紗たちの数代前のOGたちが製作した空気望遠鏡は焦点距離九・五メートル、全長は十メートルほど。かなり巨大なもので、亜紗も去年、入学して最初の頃に見て、とても驚いた。亜紗と凛久の入部を歓迎して、当時二年生だった晴菜先輩や当時の三年生が組み立ててくれたのだ。圧倒されながら、亜紗や凛久もその作業を手伝った。

空気望遠鏡は十七世紀後半に発明された望遠鏡で、迷光を遮る遮光板と、先端に直径十センチほどのレンズがついている。遮光板とレンズを支える金属のメインフレームを下から木製の昇降装置が支えていて、フレームはあるけれど、筒がない。透明な筒を支えるような形で長いフレームがレンズと接眼部をつなぐのが「空気望遠鏡」と呼ばれる所以で、完成した全体を見ると、まるで建設現場にある何かの機材のようだ。教えてもらっていなければ、それが望遠鏡だとすぐにはわからなかっただろう。亜紗たちがそれまで知っていた「望遠鏡」とはそれくらい、何もかもが違う。

巨大な姿に圧倒されたけれど、聞けば、空気望遠鏡は長くすればするほど鮮明に星を観ることができるそうで、先輩たちが作った望遠鏡は、イタリア出身のフランスの天文学者ジョヴァンニ・カッシーニが土星の輪を観測したのと同じ方式のものだ。

フレームのボルトをひとつひとつ締め、全員でかけ声を合わせて「せーの！」と持ち上げ、二時間近くかけてみんなで組み立てて完成させた望遠鏡を、新入生の亜紗は覗かせてもらった。先輩たちがまず見せてくれたのは月だ。白く輝く視界にクレーターが確認できた瞬間、亜紗も凛久も興奮したが、その後、先輩たちがさらに望遠鏡の角度を変えて、調整し、土星を見せてくれた時には、さらにさらに、より大きな感動があった。

「土星をつかまえるのはなかなか難しいんだけど――。」

空気望遠鏡で土星の輪が、ちゃんと見えた。カッシーニが三百年前に見た視界と同じ、土星。

星と輪の間に確かに隙間があるのが確認できる。その時の痺れるような嬉しさはちょっと言葉にならなかった。その時に、先輩たちが亜紗と凛久に「カッシーニの間隙」についても教えてくれた。カッシーニは土星の四つの衛星や、土星の輪が複数の輪で構成されていることを発見したことで知られているが、彼が発見した輪と輪の隙間はその名も「カッシーニの間隙」と呼ばれている。

「私たちの望遠鏡じゃ、かろうじて確認できるかなって感じだけど。」

星と輪の隙間とは別に、輪と輪の間にわずかに隙間がある。亜紗も凛久も、瞬きをこらえて、長い時間、レンズの向こうに食い入るように［　　］。

先輩たちは謙遜のように「かろうじて」と言ったけれど、亜紗は深く、深く感動していた。C夜空に向けられた望遠鏡を通じて、自分が宇宙と一緒に時間まで旅したような感覚があった。

（辻村深月『この夏の星を見る』による。）

（注）三高……亜紗たちが通う高校。
OG……女子の卒業生のこと。

㈠　文中［　　］に当てはまる語句として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア　目を奪った　　イ　目を盗んだ
ウ　目を点にした　　エ　目をこらした

㈡　文中A――「とてもいいと思います。亜紗ちゃんに原稿をお願いしてよかった」とありますが、「晴菜先輩」がこのように言うのは、天文部を紹介する原稿がどのようであったからですか。最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア　土星の輪の美しさをイメージさせるデザインとなっていたから。
イ　天文部の財産や部員の思いをうまく伝える表現となっていたから。
ウ　部員一人一人の責任感の強さを思い起こさせるものであったから。
エ　カッシーニの偉業を乗り越えたい思いが伝わるものであったから。

㈢　文中B――「三高天文部の、亜紗たちの数代前のOGたちが製作した空気望遠鏡」とありますが、三高天文部にある空気望遠鏡について述べたものとして適切なものを、次のア～オから全て選びなさい。

ア　遮光板とレンズを支えるフレームは存在するが、筒はない。
イ　十七世紀の天文学者カッシーニが日本に持ち込んだものである。
ウ　月を見ることはできるが、土星の輪までは見ることができない。
エ　建設現場にある機材を参考にしてデザインされたと言われている。
オ　金属のメインフレームを木製の昇降装置が支える形となっている。

㈣　文中C――「夜空に向けられた望遠鏡を通じて、自分が宇宙と一緒に時間まで旅したような感覚があった」とありますが、「宇宙と一緒に時間まで旅したような感覚」とは、「亜紗」にとってどのような感覚だったと考えられますか、書きなさい。

三　松田さんたちは、『小倉百人一首』にある、貞信公（藤原忠平）の歌「小倉山峰のもみぢ葉心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ」について調べることにしました。次の〔会話文〕と〔文章〕を読んで、後の(一)～(五)の問いに答えなさい。

〔会話文〕

松田さん　歌の中に「もみぢ葉」が出てくるから、この歌は、秋の紅葉の時期によんだ歌ということになるかな。

竹野さん　そうだね、秋だね。私がおもしろいと思ったのは、「峰のもみぢ葉心あらば」というところだな。この歌をよく見てみると［　Ⅰ　］が使われているよね。

梅山さん　確かにそうだね。私は、「いまひとたびのみゆき」が気になったけれど、そもそも「みゆき」って何のことだろう。

松田さん　辞書で調べてみると、「行幸」や「御幸」と書いて、天皇や法皇がお出かけになることを言うみたいだよ。

竹野さん　なるほどね。この歌をよんだ背景が分かれば、もう少し歌の理解が深まる気がするな。

梅山さん　さっき調べてみたら、平安時代の歌物語『大和物語』に、この歌がよまれた経緯が書かれているみたいだよ。次の〔文章〕がそれだね。

松田さん　そうか、なるほどね。この歌の最後にある「待たなむ」は「待っていてほしい」という意味みたいだから、つまり、この歌には、［　Ⅱ　］という思いが込められているということになるね。

〔文章〕

亭子の帝の御ともに、おほきおとど、大井に仕うまつりたまへるに、紅葉、小倉の山にいろいろいとおもしろかりけるを、かぎりなくめでたまひて、「行幸もあらむに、いと興ある所になむありける。かならず奏してせさせたてまつらむ。」など申したまひて、ついでに、

（必ず醍醐天皇に申しあげて実現させるつもりです）

小倉山峰のもみぢ葉心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ

（心があるならば）　（天皇の行幸を待っていてほしい）

となむありける。かくてかへりたまうて奏したまひければ、「いと興あることなり。」とてなむ、大井の行幸といふことはじめたまひける。

（天皇に申しあげなさったところ）

（『大和物語』による。）

（注）亭子の帝……宇多法皇のこと。醍醐天皇の父親。
おほきおとど……太政大臣である藤原忠平のこと。
大井……京都にある大井川（大堰川）のこと。
小倉の山……京都にある小倉山のこと。

(一)〔会話文〕中［　Ⅰ　］に当てはまる語として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア　対句　　イ　倒置　　ウ　擬人法　　エ　体言止め

(二)〔文章〕中═══「申したまひて」を現代仮名遣いで書きなさい。ただし、全て平仮名で書くこと。

(三)〔文章〕中━━「いろいろいとおもしろかりける」の意味として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア　様々な人が互いに笑い合っていた
イ　様々な色あいでたいそう美しかった
ウ　様々な花がとても鮮やかに咲いていた
エ　様々なできごとに好奇心をかき立てられた

(四)〔会話文〕中［　Ⅱ　］に当てはまる内容として最も適切なものを、次のア～エから選びなさい。

ア　紅葉するのはもうひと月ほど待つべきだ
イ　天皇が見に来るまで紅葉を保ち続けてほしい
ウ　来年からは法皇が来る際に紅葉を見せてほしい
エ　法皇とともに天皇がやってくるのを待ち続けたい

(五)　次の〔まとめ〕は、〔文章〕を読んで、松田さんたちが貞信公の歌についてまとめたものです。後の①、②の問いに答えなさい。

〔まとめ〕

○歌がよまれた経緯
［場面］［　Ⅲ　］のお供で大井川に行ったとき。
［思い］小倉山の紅葉を［　Ⅳ　］にも味わってほしい。
［行動］歌をよむ。
小倉山峰のもみぢ葉心あらばいまひとたびのみゆき待たなむ
↓
○その後
「いと興あることなり。」（［　Ⅳ　］の発言）
これ以降、「［　　］」が始まった。

①〔まとめ〕中［　Ⅲ　］、［　Ⅳ　］に当てはまる人物として最も適切なものを、次のア～エからそれぞれ選びなさい。

ア　宇多法皇　　イ　醍醐天皇
ウ　藤原忠平　　エ　『大和物語』の作者

②〔まとめ〕中［　　］に当てはまる語句を、〔文章〕から抜き出して書きなさい。

四 秋斗さんたちは、国語の授業で、「海外に伝えたい日本の魅力」というテーマで発表を行うことになりました。次の〔会話文〕は、発表に向けた会話の一部で、〔資料〕は会話の際に用いたものです。これらを読んで、後の(一)、(二)の問いに答えなさい。

〔会話文〕

秋斗さん　「日本の魅力」といっても様々な分野があるから、少し絞って考えたほうがいいかもね。

冬輝さん　インターネットを見ていたら、こんなデータ（〔資料〕）があったよ。これをもとに考えてみるのはどうかな。

春香さん　なるほど、いいかも。この〔資料〕は、日本の文化芸術の中で諸外国に発信すべきものは何かという問いに対する回答のデータだね。様々なジャンルのうち、全体での順位が上位五位までのものを取り出しているんだね。

夏世さん　一位は、「マンガ、アニメーション映画」なんだね。比較的幅広い年齢層で割合が高そうだよ。

秋斗さん　うん。でも、六十歳以上の年齢層に目を向けると、それほどでもないみたい。むしろ、「食文化」を見てみると、どの年齢層でも同じように高めの割合となっていることが分かるよ。特に、［　I　］の年齢層においては、五つのジャンルの中で「食文化」の割合が最も高いみたいだね。

夏世さん　「食文化」と言っても、いろいろなものが考えられるよね。おせち料理を食べる習慣とか、料理の盛り付け方とか、そういうものも含むわけでしょ。

秋斗さん　そうか。僕はすしをイメージしたけれど、もしかしたら、ラーメンをイメージする人もいるかもしれないね。

春香さん　私は、「食文化」や「歴史文化」を、日本の魅力として海外に伝えたい気がするな。旅行で京都に行ったときには、実際に海外の人もたくさん見かけたよ。

夏世さん　うーん。私は、「マンガ、アニメーション映画」も魅力があると思うけどなあ。まあ、でも、「文化」や「伝統」など、その国や地域に根ざした特有のものを、魅力として海外に伝えるのがいいのかもしれないね。

冬輝さん　〔資料〕に戻ると、「伝統芸能」は、七十歳以上の年齢層では、五つのジャンルの中で最も割合が高いことが分かるよ。それに、「伝統芸能」や「日本の伝統音楽」については、若い年齢層の人たちはあまり選ばないだろうと思ったけれど、［　II　］みたいだよ。

秋斗さん　確かにそうだね。〔資料〕からいろいろなことが分かって、参考になったな。発表に向けては、海外の人に知ってもらいたいことは何かとか、自分が見聞きしたり経験したりしたことを通して伝えたいことは何かとか、そういう観点からジャンルを絞ってみるのがいいかもしれないね。

〔資料〕

「あなたは、どのようなジャンルを日本の文化芸術の魅力として諸外国に発信すべきだと思いますか。（複数選択可）」

	全体	年齢別						
		18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
マンガ、アニメーション映画	27.6%	27.4%	31.9%	37.0%	36.3%	31.0%	24.5%	15.5%
食文化	26.2%	21.0%	21.5%	25.5%	29.9%	27.7%	28.6%	24.2%
伝統芸能（歌舞伎、能・狂言、雅楽など）	23.3%	21.0%	12.7%	18.0%	17.7%	22.5%	26.1%	33.0%
日本の伝統音楽（長唄、和太鼓など）	19.6%	24.2%	17.4%	17.2%	16.9%	17.8%	20.1%	23.9%
歴史文化（歴史的な建造物、文化財など）	14.5%	8.1%	7.4%	10.2%	13.1%	16.9%	16.4%	18.5%

「文化に関する世論調査報告書」（令和５年３月　文化庁）により作成

(一) 〔会話文〕中［　I　］、［　II　］に当てはまる内容として最も適切なものを、それぞれ後のア～エから選びなさい。

I

ア　四十～四十九歳　　イ　五十～五十九歳

ウ　六十～六十九歳　　エ　七十歳以上

II

ア　十八～十九歳の年齢層では、他の三つのジャンルより割合が高い

イ　二十～二十九歳の年齢層では、他の三つのジャンルより割合が低い

ウ　十八～十九歳の年齢層では、ともに二十％以上になっている

エ　二十～二十九歳の年齢層では、ともにわずか十％台でしかない

(二) 〔会話文〕中――について、秋斗さんたちは、次のA～Cの三つのジャンルの中から一つを選んで発表することにしました。A～Cのうち、あなたなら、どのジャンルの魅力について発表したいと考えますか。あなたがそのジャンルを発表したいと考えた理由を、そのジャンルに関する自分の経験等を踏まえ、百四十字以上、百八十字以内で書きなさい。（句読点等も一字として数えること。）ただし、一マス目から書き始め、段落は設けないこと。なお、選んだ記号に○を付けること。

A　食文化
B　伝統芸能
C　歴史文化

五 次の(一)～(三)の問いに答えなさい。

(一) 次の①～④の――の平仮名の部分を漢字で書きなさい。

① 友人に鉛筆をかりる。

② はたを振って応援する。

③ 物事をひはん的に考える。

④ 会員としてとうろくする。

(二) 次の①～④の――の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

① 変化が著しい。

② 踊りの稽古をする。

③ 鋭い洞察力を持つ。

④ 偉人の軌跡をたどる。

(三) 次の〔書き下し文〕の読み方になるように、後の〔漢文〕に返り点を書きなさい。

〔書き下し文〕 過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ。

〔漢文〕 過チテハ則チ勿カレ憚ルコト改ムルニ。

大問（配点）	正答
一 (28)	(一) i 泳ぐのが速い　ii 多様性 (二) ウ (三) [例] 生き残りやすい性質が次世代に受け継がれ、集団内に広がり、より環境に適したものに変化していくという特徴。 (四) エ (五) イ (六) ア、ウ、エ
二 (17)	(一) エ (二) イ (三) ア、オ (四) [例] 宇宙を旅するだけではなく、まるでカッシーニの時代に自分がいるような時間的な旅もしたという感覚。
三 (16)	(一) ウ (二) もうしたまいて (三) イ (四) イ (五) ① Ⅲ ア　Ⅳ イ　② 大井の行幸
四 (20)	(一) Ⅰ ウ　Ⅱ ウ (二) [例] A 私たちが生きる上で、食べることはとても重要です。世界の国々にはその国特有の食文化があり、私はとても興味深く感じています。食は私たちの生活の一部であるため、私は、日本の食文化について発表してみたいと考えます。私は毎年、年越しそばを食べながら一年を振り返りますが、海外の方に、食事に込められた意味についても知ってもらえると、日本のよさがより伝わるだろうと考えます。（百八十字）
五 (19)	(一) ① 借(りる)　② 旗　③ 批判　④ 登録 (二) ① いちじる(しい)　② けいこ　③ するど(い)　④ きせき (三) 過則勿憚改。（チテハ／カレ／ルコト／ムルニ）